

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 1月 21日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0114112626		
法人名	医療法人社団美生会釧路第一病院		
事業所名	グループホームさくら苑		
所在地	〒084-0906 北海道釧路市鳥取大通4丁目10番8号 (電話) 0154-51-2121		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	北海道札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成20年11月6日	評価確定日	平成21年1月21日

## 【情報提供票より】(平成20年9月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	15年	10月	1日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18	人
職員数	18 人	常勤 16人,	非常勤 2人,	常勤換算 13.68人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	2 階建ての	1~2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000~45,000 円	その他の経費(月額)	15,000~29,000 円
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,479 円	

### (4) 利用者の概要(9月20日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名	
要介護1	4 名	要介護2	5 名			
要介護3	5 名	要介護4	3 名			
要介護5	0 名	要支援2	1 名			
年齢	平均	84.2 歳	最低	64 歳	最高	95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団美生会釧路第一病院
---------	-----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成15年10月に開設し5年が経過した当事業所は、運営母体である医療機関と常に連携を図っており、利用者本人や家族の安心につながっている。居室は、利用者の希望に応じられるよう3タイプ設け、それぞれの部屋にはトイレ設備があるなど、住みやすい環境づくりに配慮している。センター方式を活用するとともに、菜園づくりや調理、洗濯物たたみ、茶碗洗いなど、利用者本人の役割支援も日常生活の中に取り込んでいる。散歩や買い物、競馬場での馬券購入、地区の神社祭りや花火大会への参加など、本人の意向を尊重した外出支援も積極的に行っている。今年、事業所でさくら苑祭りを企画し、利用者と一緒に家族や地域住民を招待するなど、事業所側から地域との交流を図る取り組みも進めている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価では、地域住民からの災害時の協力を得る働きかけが、課題としてあげられていた。事業所の周りは高齢者世帯が多いなど困難性はある中で、さくら苑祭りの開催などを通して、地域住民との交流を図りながら協力を求める取り組みを始めている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、職員全員で取り組んでおり、外部評価での改善課題についても、ユニット会議で課題を共有しながら、改善に向け取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、家族代表、町内会役員、地域包括支援センター職員などで構成し、利用者日々の生活や行事などの活動状況、外部評価の結果などを議題とし、意見を得ている。今後は更に、地区担当の民生委員や買い物で利用する商店主などに構成員の拡大を図る中で、幅広い意見を得ながら、より一層のサービス向上につなげていくことを期待する。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>月1回たよりを発行し、家族の訪問時には話しやすい雰囲気づくりに努めるなど、家族が意見や苦情を出しやすいようにしている。また、苦情等が出た場合は、ユニット会議等で協議するなど早期に対応をしている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入し、町内会の行事等に参加するなど、地域との交流を大切にしている。高齢者世帯が多い町内会のため、事業所がさくら苑祭りなどの行事を開催し、家族と共に地域住民にも参加を呼びかけるなどして、交流に取り組んでいる。今後もこのつながりを強めながら、事業所が持っている認知症についての知識やケア技術を地域住民への還元につなげるよう、地域との交流を更に深めることが期待される。</p>
重点項目④	

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとして、地域とともに暮らし、地域に貢献する事業所を目指すことなどを盛り込んだ独自の理念を、職員が協議して作りあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	6項目の理念の具体化に向け、リーダー会議、ユニット会議を通して、それぞれの目標を立てて取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の会議にも参加し、事業所への理解を深めてもらうとともに、さくら苑まつりを企画し家族や地域住民の参加を得るなど、地域との交流を進めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員で取り組んでいるとともに、外部評価における改善点もユニット会議等で話し合いながら、改善に結び付けている。また、評価結果は事業所内に掲示し、家族にも伝えるようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、平成18年7月に開催して以降、これまでに平成19年度は4回、今年度は現在までに3回開催している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターの呼びかけで、圏域内のグループホーム関係者が集まり、サービスの質向上に向けた場が設定されるなど、市との連携が行われている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回、事業所や利用者の状況を掲載した「たより」を発行し、家族に送付している。また、病院受診など利用者には状況変化があった場合は、その都度電話で連絡を取り報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時には、何でも話せるような雰囲気づくりに努めており、苦情などはホーム長に伝えるとともに、解決に向けた対応を取っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	特別な理由がない限り、原則として職員異動は行わないようにしている。新しい職員が入る場合は、利用者にはきちんと自己紹介し、早く馴染みの関係を作るよう努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	道主催の札幌での研修には、毎年職員が交代で参加している。釧路地区のグループホーム協議会に加入しており、スタッフ研修会などに積極的に参加している。また、研修終了後は、ユニット会議で報告をするなど、互いに学び合いながら質の向上を図るよう努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	釧路地域のグループホーム協議会に加入しており、事業所間での職員の交換研修に参加し、他の事業所の良さを学び合うようにしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用を開始する際には、本人、家族に事業所見学をしてもらい、事業所内の様子を見るなどして不安を解消してから、利用開始ができるよう配慮している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者本人の職歴や得意分野をつかみながら、利用者から学ばせようという姿勢で、調理や農作業などを利用者と一緒にするなど、共に支えあう関係づくりに努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式の様式を活用しながら、利用者本人の生活歴や趣味、意向などを把握して、希望に沿った場面づくりに努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を活用し、担当者がスタッフ会議等で原案を提示し、意見を出し合いながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画に沿った記録となるよう「ケアプラン実行表」で点検するなどし、記録から計画を評価しやすい工夫をしている。その評価を基に、利用者の変化に応じた必要な見直しを行いながら、新たな介護計画を作成している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者本人の希望に応じて、思い出の場所に行ったり、自宅に帰って仏壇参りをするなど、の支援をしている。また、週1回競馬場の馬券売場に通う利用者に付き添うなど、一人ひとりの要望に応じた対応をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携先の病院とは、常に日々の利用者の健康管理について情報交換をしている。また、母体である医療機関以外のかかりつけ医がいる利用者には、定期受診ができるよう支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所を開設して5年が経過しており、重度化する利用者が出た場合にも、早期に家族と相談しており、事業所として必要な支援を行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	トイレ誘導や排泄処理などは、他の利用者に気づかれないように、一人ひとりの尊厳に配慮した対応を取っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、利用者一人ひとりの生活リズムを把握しながら、散歩や買い物などの外出支援のほか、家族に会いに行くなどの、本人の意向を大切に個別ケアに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常会話を通して、利用者本人の好きな食べ物を把握した上で、献立づくりや買い物を可能な限り本人と一緒にを行うようにしている。また、事業所の菜園で作った野菜を収穫したり、その野菜を使って料理を作るなど、利用者が関わる場面を作っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回以上は、利用者に合わせて入浴支援を行っている。また、本人の希望で夜間入浴を行うなど、希望を採り入れた支援を行っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	センター方式を活用して、利用者の得意分野を把握した上で、畑仕事やお茶くみ、茶碗拭きなど、その人らしい役割を見つけながら支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な散歩や買い物などの外出支援をはじめ、外食、花火大会、神社祭り、ドライブ等に出かけるなど、行事等への外出支援も積極的に行っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	安全のため夜間は施錠しているが、日中は鍵をかけていない。職員は、利用者一人ひとりの動きや変化を見守りながら、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練を行っている。事業所がある地区は、昔ながらの住宅地で高齢者世帯が多く、非常時にすぐ住民が駆けつけられる状況ではないものの、運営推進会議などで地域からの協力を呼びかけている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体医療法人の栄養士により、献立の栄養バランスなどの指導を受けている。また日常的に、職員は利用者一人ひとりの食事摂取量や水分摂取量などを管理しており、利用者の変化を見逃さないようにしている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	長椅子を置いたりリビングのほかに、畳の和室もあり、利用者はお気に入りの場所で過ごすことができる。また、ベランダが建物を囲むように作られており、利用者は希望に応じてベランダに置いたベンチで過ごすなど、工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人が自宅で使用していた家具を持ち込んでおり、仏壇を置いている利用者には、毎日ご飯をあげお参りをする際の支援をするなど、本人が居心地よく過ごせるよう配慮している。		

※  は、重点項目。